

南小だより

R1. 6. 10



南風

< 令和元年度 第 6 号 >

発行：玉村町立南小学校
群馬県佐波郡玉村町角淵5011

電話：0270-65-9000

<http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/>

総合避難訓練(不審者対応・保護者への引き渡し・集団下校)を行いました！

6月5日(水)、校舎内に不審者が侵入したことを想定して、保護者への引き渡し訓練・集団下校を含めた総合避難訓練を実施しました。

今回の避難訓練では

- 不審者侵入時における児童の安全確保に向けた的確な指示、迅速な対応を行うこと
- 「自分の身は自分で守る」ことの実践訓練
- 不審者侵入時における「合い言葉」の周知、それに伴う避難経路の確認
- 緊急時の集団下校の対処行動を理解し、行動できるようにすること
- 保護者のお迎えによる下校に移行した際の対処行動を理解し、行動できるようにすること

を目的としています。

子供たちは皆、真剣に訓練に取り組むことができ、また、たくさんの保護者の皆様引き渡し訓練に参加してくださったことで、万一の事態に対する備えもより確かなものになったと感じております。



南小学校では、学期ごとに年間3回の避難訓練を実施します。避難訓練は、子供たちに「危険回避能力」を育てることだと思います。近くに先生や大人がいない場合でも、自分の命は自分で守るという能力を身につけさせなければなりません。この「危険回避能力」は、日頃から、子供たちにさまざまな体験をさせ、その中で小さな失敗をさせて育てていくものだと思います。どこにいても、またいつでも危険を察知し、回避することにより、子供自身で自分の命が守れるように、ご家庭でも話し合っただけであれば幸いです。

プール清掃・プール開きを行い、水泳が始まりました！

5月23日・24日に6年生と5年生、そして、4年生も協力をして、プールを掃除してくれました。金たわしで力を入れてこすらないと1年間の汚れが落ちず、たいへんな作業でした。しかし、どの児童も一生懸命に掃除をしてくれたので、あんなに汚れていたプールがピッカピカです。ありがとうございました。6月3日にプール開きを行い、学校ではいよいよプールを使っての水泳の勉強が始まりました。水の中で歩いたり泳いだりすることは、体全体を使う運動ですから、体を鍛えたり、体力をつけたりするのにとてもよいスポーツだと言われています。今年の水泳の学習が、安全で、楽しくでき、皆さんの体と心がたくましく成長することを期待しています。



小学生の親子におすすめの勉強法 (前号の続き)

勉強法にはいろいろありますが、小学生に最適な勉強法はどんなものがあるのでしょうか。ここでは親から子へ勉強を教える方法とともに、小学生におすすめの勉強法をご紹介します。

7. 国語はヒントを与えて子供をサポート!

低学年の子供には、教科書の書き取りを。高学年の子供には、読んだ本の要約をしてみるようにすると、国語力がアップします。また、音読も有効です。また、読解問題が解けなかったのであれば、ひたすら復習するようにしましょう。国語の場合は本文の読み間違い、文章の主旨が読み取れていない、設問の読み取りが間違っているなどがミスのパターン。これらを丁寧に復習し、なぜ間違ったのかを反省するだけで必ず次につながります。親御さんが子供といっしょに勉強するときにはできることは、音読を聞いてあげたり、書き写しや要約が終わったあとに「どんなところが面白かった?」など子供に聞いてみることです。また、漢字がわからなければ「辞書を使って調べてみたら」などとヒントを与えてサポートしてあげるとよいでしょう。



8. 算数は、子供の問題点を把握し、改善に導く

算数は、基本である計算問題を繰り返すことが大切です。算数を親子で勉強するときに、親は、子供が理解していないところ(問題点)を見つけてあげるとよいでしょう。たとえば、計算であれば繰り上がり、繰り下がりができていない、九九が間違っているなどです。これらは基本的なことですが、そのことがわからない、または間違っただけのまま勉強を進めると、「できない、わからない、嫌い」という状況をつくってしまいます。ですので、親が、子供が理解していない部分を把握し、わかるように教えてあげてください。文章問題の場合は、国語の読解問題と同じです。本文の誤読がないか、単純な計算間違いをしていないかなど、低学年のうちには不正解になった原因を探り、その原因を教えてあげてください。高学年になれば、「どこが違っていたの?」と原因を子供自ら究明させることが重要です。そのことだけでも、ぐんぐん算数の力がついていきます。



9. その他の教科の教え方

社会や理科は、子供が疑問をもったときや、「〇〇のことを教えて」と言われたときに成長のチャンスと捉えるようにしましょう。たとえば「星座の見方を教えて」と言ってきたら、図鑑や子供向けに書かれた専門の本などで調べるようにアシストします。そうすれば、星座の見方だけでなく、その周辺のことも興味をもったり、詳しくなり、もっとその教科を好きになる可能性大。ぜひ、調べ学習するように伝えてみてくださいね。

10. 幼少期の学習で大切なのは、勉強で自信をつけること

受験勉強の本をたくさん執筆されている和田秀樹先生によると、「小さな子供のうちに自信をつけること」。また、「百ます計算」などの「陰山メソッド」が多くの学校・家庭で成果をあげている陰山英男先生も、「子供は信じてやってこそ、あきらめを克服し、自分を高めるようになる」とおっしゃっています。昨今では、自己肯定感の低い子供が増加傾向にあるという指摘もあります。そのことが学力アップの足を引っ張っている可能性があるのです。勉強によって自分に自信をつけることで、自己肯定感を育み、さらに「勉強したい!」、「もっとやるぞ!」という好循環が生まれます。

11. 反復学習で基本的な学習能力を高める

陰山先生のお子さん、小学生のころ、教科書などを声に出して読ませ、次に百ます計算などの計算練習をする。そして最後に宿題もやってしまう。時間があれば、あとは読書をするだけという学習をおうちでやっていたそうです。読み書き計算で、基礎学力を確かなものにするのが目的です。これらはすべての教科の礎となります。また、文章がスラスラ読めるようになった、計算が速く解けるようになったなど、成果がすぐに実感できるので、「自分はできるんだ!」という自信にもつながります。

12. 子供に合った方法を見つける

和田先生がおすすめするのが、その子に合う、実際に成果の出る方法を見つけることです。その方法とは、教材かもしれませんが、勉強の時間帯かもしれません。子供は一人一人違います。自分の子供に合った勉強法を探しましょう。もし、やってみた勉強法が合わなければ、その原因を分析します。そして、その分析結果をもとに、ほかの方法を探し、どんどんほかの勉強法にチャレンジしてください。

13. 教科書を読む

陰山先生曰く、教科書を読ませておくと効果的なのだそうです。これは、新学期を迎えるときや新しい単元に入るときなどのタイミングで行うようにします。このとき内容はしっかり理解しなくても問題ありません。予習の段階で教科書を読んでおけば、授業内容を理解するのがスムーズになります。これは、小学校ではもちろん、中学や高校になってもできることです。しかも特別な教材は必要ありません。手軽にできるので、ぜひやってみてください。